

蒸繭方法告諭書

府縣

別紙ノ通製絲蒸繭ノ方法告諭書相渡候条各府  
縣管内ノ領布可致候此段相達候事

明治六年五月

大藏省事務総裁  
正四位大隈參議

8420

147

夫は生糸ハ御國産の第一にして其利潤も世に  
普く知る所なり然るに近年製一方廢抹の添  
隨て品位相劣り竟る名品の聲價を失ひ國家の  
洪利を減損し高費或ハ破産に至るハ宜し  
堪えざるや因て其業に従事するもの爲に今  
政府既ハ外國製の器械を購入し上州富岡に製  
糸場を建築し佛人ブリュナ氏始め外國人男女  
数名賃雇入し其教授を受け製糸試験せしむ

良好の糸と製造をくり其練糸法最要なる所  
を蒸繭の良法とあり古きハ從來御國內にお  
てハ繭を太陽に晒し其暖氣を以て乾し殺せハ  
是特ニブラン糸の性と變じ其光澤を失ふもの  
を以て暖度不足を以て補速く死せしむ  
て織或ハ繭の化出する患を以て今歐邏巴の  
機械を用うるに於てハ斯のおく不便なり  
繭雨に拘りて多量の繭を一度に蒸殺せしむ

得ち其方法容易にして其功用大なるものと謂  
べし依て其方法概略を左に示す。夫は藪の總工  
新鮮なるを撰り、瓶を以て蒸す日十日之を  
蒸振ある場所に入き置き、細密な點檢し量目  
掛け先づ大ひなる釜に熱湯を沸し、側面の如  
き戸柄様の大ひなる箱或大瓶の口をを置  
た中に棚を十段設け、藪二十を載せ一籃に容る  
粟の藪五升合せし一石方りをお箱の戸を密閉

大藪

箱の底并、釜の蓋に小孔を穿ち竹筒を曲折し  
てお通し、以下沸騰の蒸氣を箱の中に入ま  
孔の上へ四のうらら藪様のものを覆ひ蒸氣を  
受ふ其水氣を滴下せし熱氣を留めて藪を  
蒸し蛹死するを度とせ、蒸し加減は中  
此熱度大略百四十度なり、然る後蒸氣を取出し  
藪を入き、重なる置き布圍或ハブラシケ  
ツトの類を覆ひ、暫時濕氣を取り風氣快通する

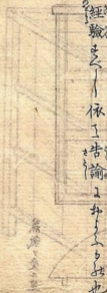
所小置き速く乾を要を<sup>要</sup>行後季秋に至るまで

日々攪散し死蛹腐敗し<sup>腐</sup>繭と損まると防<sup>防</sup>を

因<sup>因</sup>器械の畧圖と添<sup>添</sup>製糸家の為<sup>為</sup>其大概

を<sup>を</sup>詳知せん<sup>詳知せん</sup>と欲<sup>欲</sup>富岡製糸場<sup>富岡製糸場</sup>就

實地<sup>實地</sup>經驗<sup>經驗</sup>依<sup>依</sup>告諭<sup>告諭</sup>ふ<sup>ふ</sup>也



富岡製糸場